人権教育全体構造図

人権としての教育 (education as human rights) 教育を受けること自体が重要な人権であるとの認識に立って、就学の機会均等の保障はもとより、子どもたちの「生きる力」を培う豊かな教育を受けること
 — 学ぶ機会 —
 が保障されているかという視点である。

研究主題 — 自分のおもいや考えを豊かに伝え合う子～表現活動を通してことばの力を育てる～

すべての子どもたちが届く確かな指導・支援							地域や家庭の教育力を高めるための支援
「言葉の力」を育てる授業づくり。	国語科で培った「伝え合う力」を他教科・領域にも生かす。	基礎・基本につながる日常的な取組を大切にする。	言語活動および言語環境の充実を図る。	読書活動の充実をめざす。	ぐんぐんタイム・チャレンジタイム・帯時間の充実を図る。	家庭学習の充実をめざす。	
○育てたい「言葉の力」を導き出す学習方法や学習形態の工夫 ○相手や目的を明確にした「話し合い」の指導方法の工夫 ○「良い話し手や聞き手」を育む指導	○相手の立場やおもいや考えを受け止めて、自分のおもいや考えを適切に伝え合う ○友だちと自分のおもいや考えを交流し、心のつながりを大切にしたい伝え合いを行う ○自分のおもいや考えを文章に整理し、適切に伝え合う	○音読・朗読など声による表現を工夫する ○書くことを大切に、自分なりの考えをもったり表現したりする ○漢字を正しく書くなど、基礎・基本の内容を大切に	○学級での1分間スピーチ ○ふかくさタイム(学年発表) ○形式的言語の重視 ○「ことばの力」を育てる掲示物の工夫 ○「言葉のハンドブック」の作成 ○模範となる教職員の言葉遣い	○朝の読書タイムの積み上げ ○「めざせ100冊!読書マラソン」への取組の充実 ○コミュニティプラザ深草図書館の有効活用 ・発展図書の開示 ・定期的な「団体貸し出し」 ・読書用や調べ学習用	○ぐんぐんタイム・チャレンジタイムの充実 ○朝・昼の帯時間(各10分間)における継続的な取組 ○国語(漢字・ことばの問題等)の基礎・基本の徹底指導 ○算数(計算・文章問題等)での基礎・基本の徹底指導	○(15～20分)×学年の時間を生活リズムに位置づける ○漢字や計算等、繰り返して学習することにより定着を図る ○学年に応じた自らが工夫した自主学習の推進	○家庭訪問 ○学級懇談会 ○学校だより ○学年だより ○学級だより ○保健だより ○給食だより ○家庭教育学級 ○PTA広報誌

人権を通しての教育 (education in or through human rights)
 — 学ぶ環境 —
 深草小学校の教育活動全体を通して、子どもたちが人権の大切さを日常的に感じながら、学習することができる環境を、学校や学級において作り出すことができているかという視点である。

規範意識の醸成とすべての子どもが安心して学べる環境の構築
 ○子どもの規範意識を高め、すべての子どもが安心して学べる学校づくりを進める。
 ○あらゆる教育活動において、差別(いじめ)を許さない絆づくりに意図的・計画的に取り組む。

生徒指導目標
 ○自ら考え、行動する子を育てる。
 ○友だちを大切に、協力し合える集団を育てる。

人権を基盤とした学級経営
 ○人権感覚(仲間を尊敬する態度)を育てる。
 ○自尊感情(自己実現への有能観)を育てる。
 ○仲間意識(共に生き、共に歩もうとする意識)を育てる。

○同和教育: 同和問題をはじめとしたあらゆる人権問題に対する正しい認識を深める。
 ○外国人教育: 民族や国籍の違いを認め、互いに尊重する態度を養う。
 ○男女平等教育: すべての子どもが、男女を問わず等しく個性ある人間として尊重され、一人ひとりが自己の能力を十分発揮できる資質や能力の基礎を培う。
 ○総合育成支援教育: 障害のある児童や支援を必要とする児童への理解を深め、個々の課題に対する支援及び共に生きる社会を目指す総合育成支援教育を目指す。
 ○生徒指導: 一人ひとりの良さ、可能性を認め合い伸張させる集団づくり。

深草小学校におけるあらゆる活動を通して

人権のための教育 (education for human rights)
 — 学ぶ目的 —
 深草小学校の教育活動全体を通して、すべての人々の人権が尊重される社会を実現し、その社会を担い得る人間として成長する子どもの育成を目指す教育実践が行われているかという視点である。

学校教育目標
 支え合い高め合う集団の中で、自らの未来を切り拓く児童の育成

めざす子ども像 = 「ふかくさ」の子
 自然や人とのふれあいの中で、感動する心を持つ子ども
 心も元気がたくましい子ども
 自ら考え工夫する子ども
 他人を思いやり支え合い励まし合う子ども

めざす学校像
 ○一人ひとりが生き生きとかがやく学校づくりをめざす。
 ○教職員自らが自己の資質や能力の向上をめざす。
 ○全教職員が一致協力して教育活動を推進する。
 ○家庭や地域と連携して、「開かれた学校づくり」を推進する。

人権教育の基本指針
 子ども一人ひとりが自尊感情を高めるとともに、お互いを尊重し、認め支え合い、共に生きることの大切さを学ぶことを通して、人権という普遍的文化の担い手の育成を目指す。

人権教育の目標
 ・互いの良さを認め合い、差別をしない、差別を許さない子を育てる。
 ・教職員一人ひとりが人権問題の理解と認識を深め、人権意識を高める。

同和教育 | 外国人教育 | 男女平等教育 | 総合育成支援教育

人権についての教育 (education on or about human rights)
 — 学ぶ内容 —
 子どもたちが人権についての理解・認識を深め、人権を守る意欲や態度を育むとともに、人権に関わる問題解決のために行動できる力を培うことができているかという視点である。

互いの良さを認め合い、差別をしない、差別を許さない子を育てる

すべての子どもたちに同和問題をはじめあらゆる人権問題に対する正しい認識を育てるとともに解決に向けた実践的態度の基礎を培う。

同和問題指導
 ○同和問題に対する正しい認識
 ○あらゆる人権問題に主体的に取り組む姿勢
 ○人権が守られてこなかった歴史、守ろうとしてきた歴史と自分とのかかわり
 ○人としての生き方を学ぼうとする態度

人権に対する認識を育てる指導
 <人権学習>
 ◆生活科 ◆社会科 ◆道徳 ◆総合的な学習の時間
 ◆生徒指導 ◆同和教育をはじめとしたあらゆる人権教育 ◆外国人教育 ◆男女平等教育 ◆総合育成支援教育 ◆人権集会 ◆深草ゲームランド

保護者の同和問題をはじめとしたあらゆる人権問題解決への認識を育てる。

◆人権参観・懇談会…テーマ別に分かれて実施 ◆家庭教育学級
 ◆学級懇談会 ◆学校だより ◆学年だより ◆PTA新聞等